

塾長の独り言 NO 60 H18 .8. 21

「人物鑑定法」

～～人を見る目を養え！～～

古来、東洋哲学では、人を見る眼を磨けとっております。
人材を登用する場合は、自薦がいいのか、他薦がいいのか？
皆さんはどちらがいいと思いますか？

中国古典では、幾つもの人物鑑定法を取り上げています。
参考までにご紹介します。

第一に、顔つき。

第二に、発言。

第三に、行動。

人間はその本性は顔つきに現れる！怖いですね。
私も8割は顔つきで判断していますね。特に年齢を重ねるとわかりますね。
私も毎日、鏡で笑顔と顔つきをチェックするように心がけてます。
次に、発言。中身のない人間は話の内容に深さがありませんね。
いくら表面的な知識があっても、自分のものになっているかどうかは鍵なのでしょうね。
最近、いろいろな角度から物事をみて、判断するように心がけております。
例えば、「靖国問題」「アメリカ牛肉問題」など、面白いですね。
最後に本性は、その行動に現れる。
今、何をしているのか？過去どうゆうことをしてきたのか？
その行動の基にある本質は、いったい何なのか？

又、孔子さんは論語では、

「その以ってする所を視、その由る所を觀、その安んずる所を察する」とっております。

つまりは、人を見る決め手となるのは、その人の行動であると

- ・ なぜ、そうするのか？その理由は何か？
- ・ その動機は何か？又その結果、どのような利益を考えているのか？

突っ込んで観察すれば、どんな人間でも本性は隠しきれない、ということです。

<コメント>

「人物鑑定眼」は経営の本質、人を見る眼を磨け！

その行動の本質とは、何故、理由、動機とい目的を探れ。

そして、いったいどのような損得を考えているのかを探れ。

判断する基準は、いったい何なのか？

・・・判断基準、それはその人の信じている「価値観」

古人も「人を知るは智者、おのれを知る者こそ明知の人である。」と語っています。